

悪性リンパ腫の多様性

—骨原発悪性リンパ腫 2 例—

若松 信一 田村 和夫 尾畑由美子
梶屋 愛 高松 泰 一瀬 一郎
鈴宮 淳司

福岡大学医学部内科学第一

要旨：悪性リンパ腫の中で最も頻度の高いびまん性大細胞B細胞性リンパ腫（DLBCL）は多様な疾患を包含し、その発生母地により臨床像、経過が異なる。骨原発悪性リンパ腫は比較的まれなリンパ腫で、過去7年間当科で経験した悪性リンパ腫363例中骨原発は2例であった。男女各1例、組織型はともにDLBCLであった。1例は右距骨原発で同部位の疼痛、もう1例は第5、6胸椎原発で下肢の不全麻痺で発症し、病期はいずれもIAEで、化学療法（CHOP療法）と放射線治療の併用にていずれも寛解にはいり、1例は完全寛解期間が6年を越え治癒、1例は麻痺が徐々に改善している状態である。早期骨原発悪性リンパ腫は、放射線・化学療法にて高い治癒率が得られる腫瘍である。

Key words：骨原発非ホジキンリンパ腫，CHOP療，放射線療法